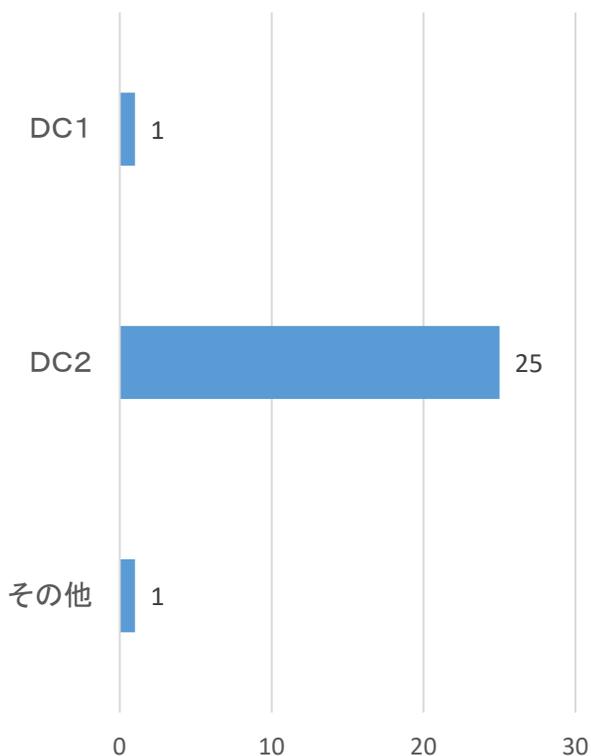


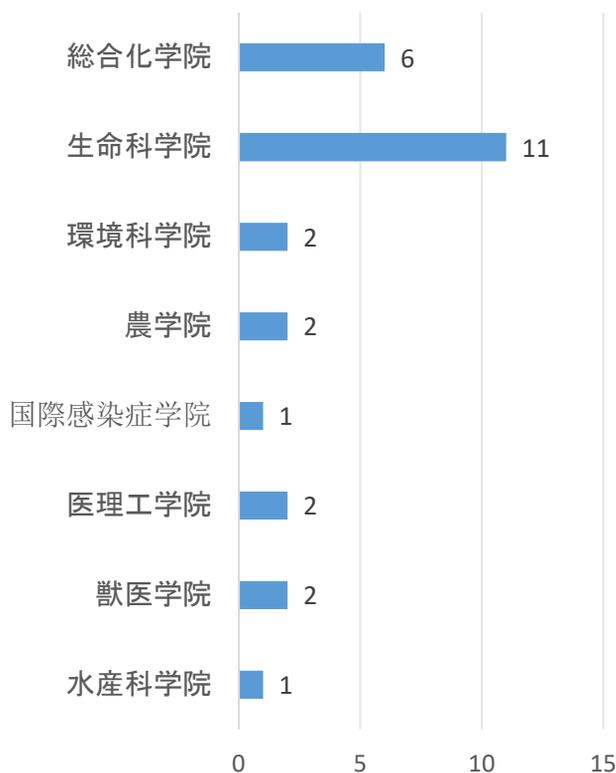
第58回 (R7第1回) 赤い糸会 アンケート

[1] 回答者：博士人材27名 (※うち16名分掲載)
企業14名 (参加者：博士人材27名・企業9社)

博士人材学年

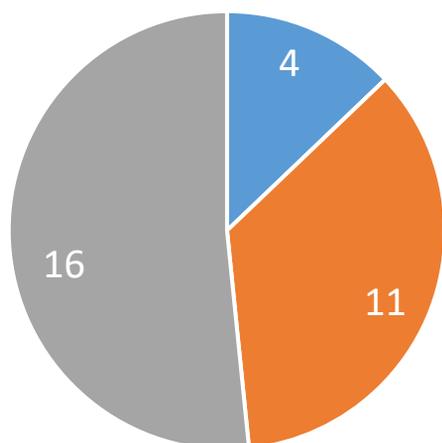


博士人材所属



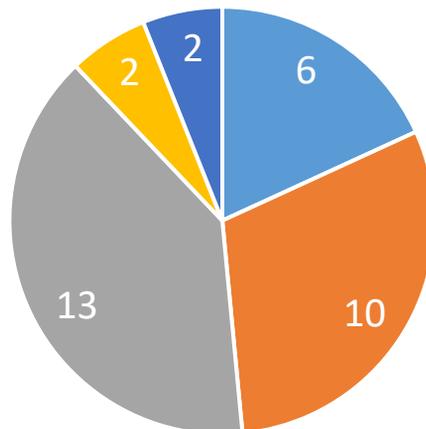
[2] 博士人材ポスター発表(複数回答可)

アピールできた点(博士人材)



- 1.プレゼン技法
- 2.専門性
- 3.人物・個性・特徴

注目する点(企業)

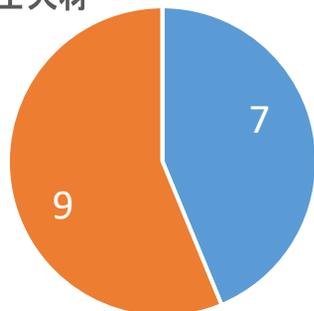


- 1.プレゼン技法
- 2.専門性
- 3.人物・個性・特徴
- 4.ポスターのデザイン・レイアウト
- その他...

[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

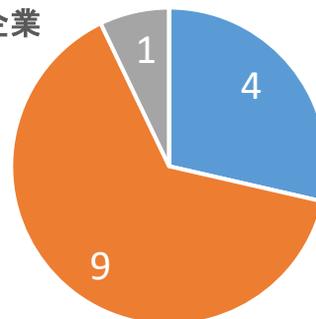
■ポスター発表でのコンタクトについて

博士人材



- 1.十分にコンタクトがとれた
- 2.ある程度はコンタクトがとれた
- 3.あまりコンタクトがとれなかった
- 4.全くコンタクトがとれなかった
- 5.不参加

企業



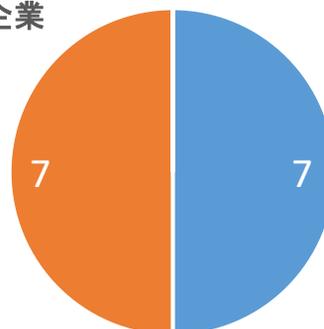
■企業ブースでのコンタクトについて

博士人材



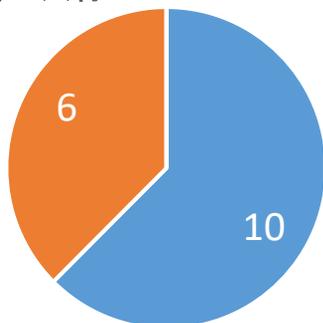
- 1.十分にコンタクトがとれた
- 2.ある程度はコンタクトがとれた
- 3.あまりコンタクトがとれなかった
- 4.全くコンタクトがとれなかった
- 5.不参加

企業



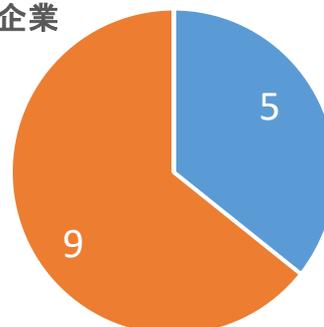
■情報交換交流会（懇親会）でのコンタクトについて

博士人材



- 1.十分にコンタクトがとれた
- 2.ある程度はコンタクトがとれた
- 3.あまりコンタクトがとれなかった
- 4.全くコンタクトがとれなかった
- 5.不参加

企業



■プログラム全体のコンタクトについての感想（抜粋）※博士人材

これまでの赤い糸会よりもこじんまりした会だったので、自分から積極的に話しかけた。結果、十分にコンタクトが取れたので満足している。

前回のオンラインに比べて、企業とのコンタクトが取りやすかった。事業内容だけでなく、そこで働いていらっしゃる方のお人柄や職場の雰囲気も感じ取れて大変参考になった。

時間制限と回遊システムのおかげで複数企業と濃いディスカッションができた。自身の研究内容についてはもちろん、キャリアに関する話をする時間もあった。

自身をアピールすることができ、エントリーや会社説明会の案内を頂けた。

今回は過去数回に比べて、より多くの企業の方と交流できた感覚があった。一方で、やはり時間の関係で交流しきれなかった企業の方もいた。

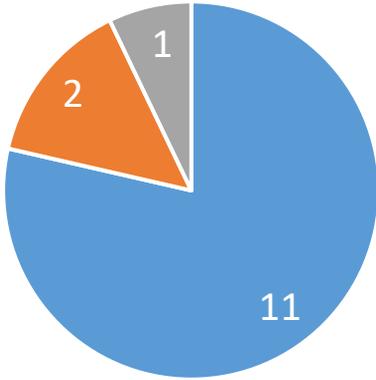
企業ブースについて、話を聞きたい企業がすぐ埋まってしまい交流ができない点が少し残念だった。企業によって、時間のほとんどをプレゼンテーションに使うところと学生からの質問を受けるところに分かれていた。企業からのプレゼンは短くまとめてもらい、こちらから話を聞くことに重点を置いてもらえるようより交流を深められたのではと思う。情報交換会も1時間があったという間で、もう少し時間があれば交流したい企業もあった。

企業の数に比べて学生の方が多く感じたが、前もって知らされていたので焦らずに対応できた

ポスター発表、企業ブース、懇親会と複数のコンタクトの機会があったため、ほぼ全ての企業の方とお話することができ、知りたかったことも一通り聞くことができたので良かった。

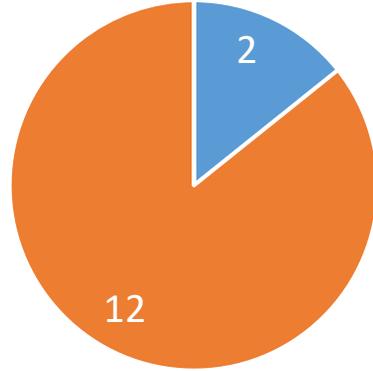
[4] 企業のみ

参加博士人材について



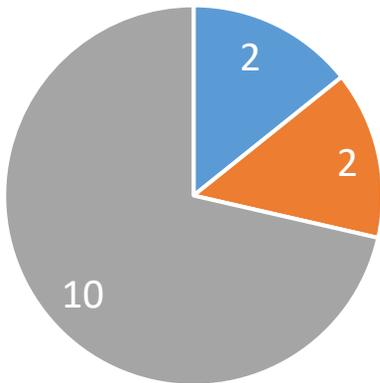
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に出会えた
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1カ月位)について

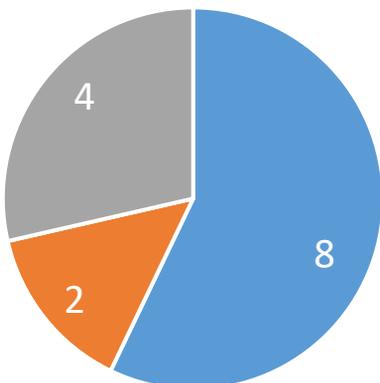


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方:
差し支えなければ、理由をお教えてください。

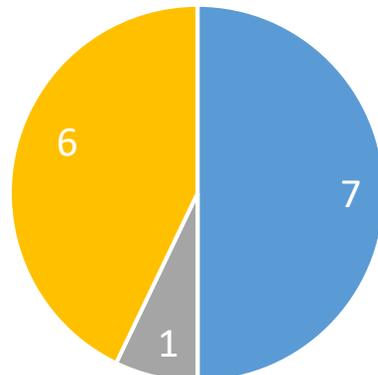
弊社内に受け入れる体制や余力が現状ないため
現場の受け入れ体制が整っていないため本年度は難しいです。一方で来年度以降の受け入れについては検討しています。
長期インターンシップを受け入れるためのプログラム内容がないこと。また、知財や機密情報へのアクセス制限の観点もあるため。実業務に近いことをしようとする機密情報と知的財産の管理の問題がありますが、この点を避けてしまうと当たり障りのないプログラムになり、学生の貴重な時間を使ってもらっても学びが少ないことが懸念です。
会社にそのようなシステム・前例がないため
現在の研究に注力して欲しい為
技術的なところで、責任を取るのが難しいから

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

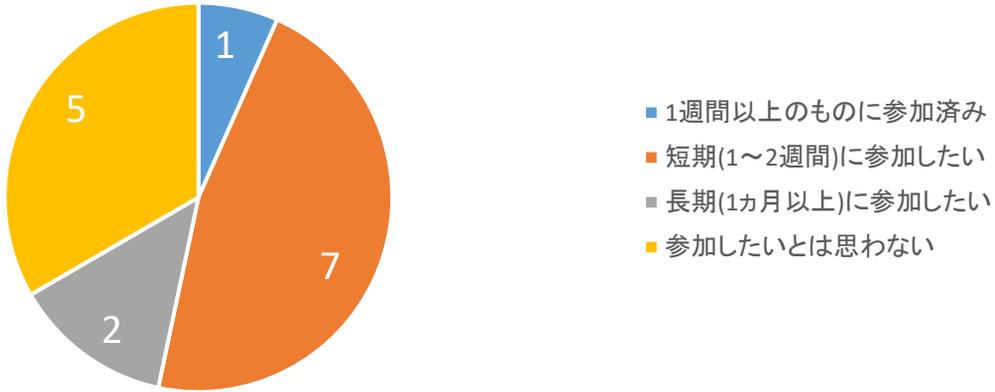
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)の利用について



- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

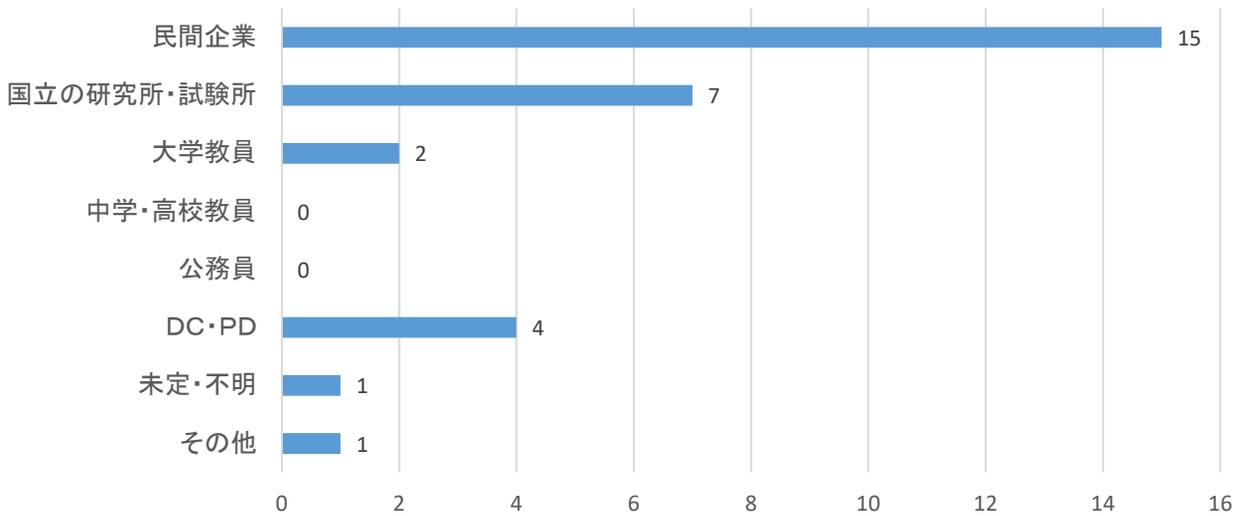
本会参加の企業に限らず、インターンシップに参加したいと思いますか。



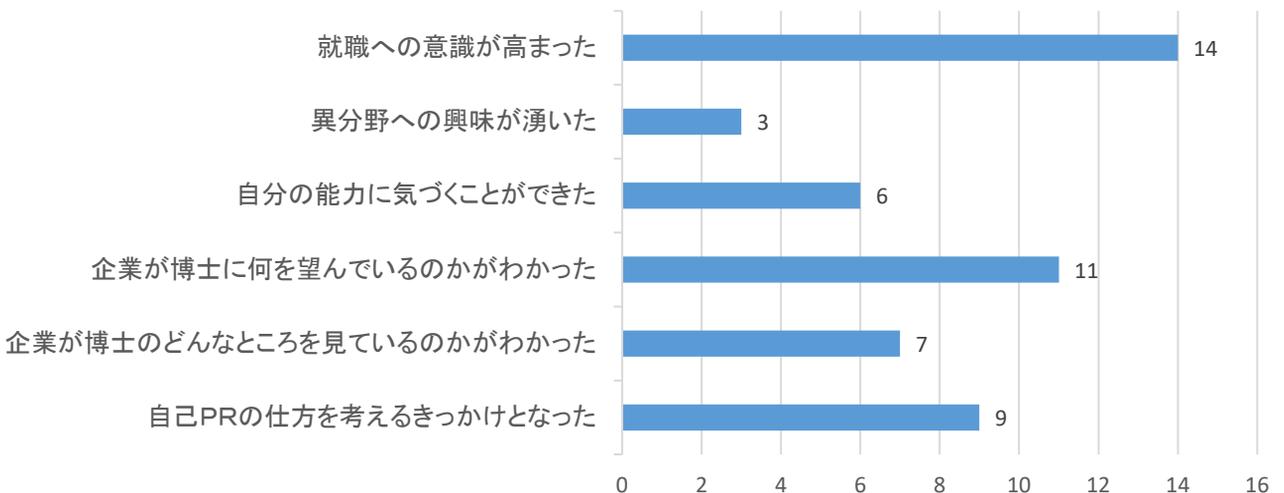
その他の回答:

短期は参加してみたいが、培養研究との折り合い次第

あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い系会」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）



[6] 「赤い糸会」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

1	企業の人への効果的なアピールの仕方や、アピールの方法を考えることができた。ES頑張ります。
2	私の研究に対する理念や取り組み方に、肯定的な企業様もいらっしゃれば、理念が合わない企業様もいらっしゃるということを痛感した。具体的には、同じ内容を伝えていても、反応や意見が異なっていた。これは前回の赤い糸会オンラインではあまり感じなかった点であり、実際の会話内容だけでなく、社員の方のちょっとした表情や会話の間から読み取れる要素が多くあった。今後の企業選びにおいては、自分が何をしたいかに加え、自分の考え方と合う企業なのかどうかも視野に入れて就活を進めたいと思う。
3	現在、自身の研究で行き詰っているポイントがあるのですが、それを打開する力を企業が博士に求められていると感じ、改めて、現在の自身への研究へのモチベーションにつながった。
4	多くの企業は博士課程で得ることができる高い専門性以上に、物事を主体的に行うことができるような人物を求めていること。
5	企業側は博士研究の過程、テーマを生み出し地震で推敲する能力を高く評価しているし期待している。具体的な分野や専門性、応用、性質は企業研究と大学研究のそれぞれが全く別物くらいの認識、得意なところを伸ばすという感覚の方が大半である。大学研究だけ見ていると視点が欠落するので目から鱗だった。
6	企業の方々の視点、特に新卒の人材に何を求めているかや、実際に何をしているのかが具体的に分かった。
7	製薬業界の企業にも活躍の場がありそうだということ。異分野の方への研究内容の伝え方。
8	企業は博士に専門性を期待するけれども、その専門性の高度さやどれくらい尖っていてほしいのか、という点に関しては、企業によって千差万別であるということ。
9	企業の方々が博士に求めることとして専門性はもちろんのこと、研究を進める論理的思考やバイタリティ、やりきる力などこれまで研究で身につけてきた様々な力を総合的に見ていることを知れた。自身の研究や専門性がそのまま企業研究に応用できないことを少し気にしていたが、企業の方はその点はあまり大きな問題と考えていないようで安心した。
10	これまであまり伸ばしてこなかった自分を他者に伝える能力が大事と言うことがわかりました。
11	自分が事前に思っていたよりも、企業の方が専門性以外のところもみているなど感じたこと。
12	スグキクのアンケートでもあったように、博士学生には自主性・主体性を求めていることがわかった。自分で新規テーマを立ち上げたことを評価してもらえているようだった。「自分でビジネスをやってみたらいいのに」という趣旨のことを、複数の企業の方から言われた。
13	自分が何をしたいのか、はっきり定まっていなことに気づいた。就職先を現時点で判断するのが少し怖い。
14	博士課程は、積極性や専門性が求められていることがわかった。就職活動の参考にするとともに、残りの博士課程で研鑽を積みたい。
15	企業がどういったことを博士人材に望んでいるかがわかりました
16	企業が、どのような人材を求めているのかが分かった。また、企業ごとに全く異なるビジョンを持っていることが分かった。

[7] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	専門性にも期待をしておりますが、それ以上に研究や事業を推進する能力を期待しています。
2	自らの専門性の深堀と俯瞰（その能力が企業または社会でどのように活きるのか、自信をもって語れるようになってほしい）
3	専門性、イノベーションを起こすための下地、チームワーク
4	自らの専門性を高めてくることは当然のことですが、赤い糸会のようなイベントにも積極的に参加していただき、アウトプットの量と質を高めていただきたい。
5	研究レベルはもちろん、コミュニケーション能力、積極性、論理的思考力、プレゼンテーション能力等のスキルを持ち合わせた人材と出会えることを期待しています。 企業研究はアカデミアの研究とは全くフィールドが異なると考えて頂いて結構で（専門性がマッチするとそれはそれでその学生様の武器になります）、尖った専門性を磨くことに走るよりは、どのように研究を進めてきたかを領域外の人間にも分かりやすいストーリーとして組み立てる思考力、それを伝えられるコミュニケーションを磨いて頂くことも重要だと思います。 今回の参加者は総じてそのような能力に長けていて、貴学の教育レベルの高さをうかがい知れました。
6	自身の研究に対する深い理解、コミュニケーション能力、自主性
7	まずは大学の研究に打ちこみ、専門性を伸ばしながら自分の強みを見つけ、その強みを伸ばして行って尖った人材になってほしい。その上で、まだ博士人材の方は若く柔軟性があるので、弱みとを感じる部分は平均点位にはたどり着く努力をしてほしい。
8	自身の研究にとらわれず、広い視野で研究を進めることができる力。
9	専門性と達成志向性
10	博士人材に期待するのは着実に研究を推進する力と、困難に立ち向かう精神力であると感じています。引き続き情熱をもってご自身の研究活動にのぞんでいただきたいです。
11	すべての学生や分野にもとめることではないものの、企業との共同研究や研究の社会実装の経験を持った学生を見てみたい。
12	しっかり研究を進めて専門性を高めてほしい
13	インターンを通じて相互理解に努めたい。

[8] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

1	全体的に良い会になったと思います。
2	初めての対面参加でしたが、最初から最後まで大変勉強になりました。前はオンライン参加であり、そこで実施できなかった、ポスターを見ながらの発表や社員様への声掛け、議論、質問対応を實踐でき、自身の強みと課題を明確に把握できたと感じています。 具体的に、強みとしては『研究やこれまでの取り組みを楽しく魅力的に伝えられる点』、課題としては『企業に就職した後にどのように貢献したいか、を伝える能力に不足がある点』だと考えています。今後も引き続き参加したいと思います。よろしくお願いいたします。
3	ポスター印刷でトラブルがあったのですが、ご協力いただき大変ありがたかった。
4	個人的には今回のような分野特化型の開催は面白いと感じました。全く知らない、目も向けていなかったという角度からの新たな発見は少ないですが、参加者や企業がある程度同じ方向を向いている分企業の方との話しやすさや質問の具体性が上がり、参加者同士でのコネクションは作りやすいと思います。それが赤い糸会の当初よりのねらいや趣旨と合致するかはさておきとして。
5	いつも大変お世話になっています、ありがとうございます。
6	想定していたよりも製薬業界の方が多かったため、もう少し化学や材料系の企業の方と情報交換したかった。
7	今回のように、業界を絞った会は、ポスターの専門用語が選びやすかったり、説明の際の温度感を測りやすいというメリットがあった。 企業が求めていることも割と自然に理解でき、自己アピールがしやすかった。
8	初めての参加だったがとても有意義な機会となった。今回発表して企業の話聞くことで精いっぱいだったが、参加するごとに効率的な過ごし方がわかってくると思うので今後も可能であれば参加したい。
9	今回のような特定の業界に絞った会はとても良いと思いました。 異分野業界も見るといい意見には賛成ですが、就活の第一歩として身近な業界の方と密に話せるのはとても良い機会だと思いました。
10	企業の方々は、すべてのポスターを見られるように2人で事前にローテーションを決めていたが、学生側の声掛けに応じてプレゼンテーションを見に行つたため、想定通りのローテーションができなかったようです。（住友ファーマさんがおっしゃっていた気がします。） プレゼンテーションの時間割（10分までとか）を決めて機械的にローテーションする方が、企業側と学生側の両方にとってよいのではないかと思います。仮に興味がなくとも、思いもよらない出会いがあるという意味で双方にメリットがあるのではないのでしょうか。 ただ、現在のスタイルの方が学生の積極性が試されるので面白いとも思います。
11	直接企業の方と話すことができよかったが、ポスターセッションで企業の方が通るたびに奪い合うような空気が自分には少ししんどく感じた。 参加している学生の積極性を見習わないといけないなと思った。
12	いい機会をいただけてとても嬉しかったです。

企業

1	<p>昨年はオンラインでの参加でしたが、今年は自身初めて現地での会に参加となりました。学生の皆様が企業担当に積極的に話をされている姿勢が非常に良く、博士としての専門性だけでなく人物像にも優れた方が多い印象を受けました。次回以降の会につきましても参加を検討させていただきたいと思っております。事前準備から当日までフォローいただきました事務局の皆様にも感謝申し上げます、誠にありがとうございました。</p>
2	<p>研究をとおして学生と対話できる機会は大変器量な機会だと感じています。今後とも開催いただけますと嬉しく思います。</p>
3	<p>ハイレベルな学生が多く、ポスター発表も興味深いテーマがいくつもありました。全てのポスター発表を聞くことができませんでしたが、学生と出会い、密にコミュニケーションをとることができる非常に素晴らしい会でした。このような場を設けてくださいました運営の皆様ありがとうございました。</p>
4	<p>今回は対面で参加させていただきましたが、非常に有意義な会でした。時期としてもちょうど良かったと思います。企業ブースは回数を減らして、1回の時間を長くしても良かったと思います。</p>
5	<p>人事部より依頼を受けて研究現場から初めて参加したが、貴学の博士課程学生の研究レベルの高さに驚かされるとともに、コミュニケーション能力、積極性、論理的思考力、プレゼンテーション能力の高さを感じました。このような機会は、企業から参加する研究員にとっても刺激が大きく、推薦したい人材を人事部に推薦することもできるので、引き続き研究現場からの参加も許容して頂けると助かります。また、懇親会の開催も素晴らしいアイデアで、より密に学生様の話を聞くことができ、それに対してフランクにお答えできる場でありました。趣向を凝らした、学生様のことを考えた貴学の取り組みは非常に素晴らしく、今後ともぜひ弊社を参加させて頂けますと大変幸甚に思います。</p>
6	<p>ポスター発表や懇親会を通じて十分な時間博士人材と触れ合うことができた。ポスター発表についてはもう少し時間が長くて良いと思う。</p>
7	<p>オンラインが主流だった2021年から赤い糸会に参加していて、今回初めて対面で参加しましたが、対面の方が、学生の熱量が伝わり、当社も熱量を持って伝えることができ、双方向で密なコミュニケーションができたと感じました。ぜひ来年も対面で参加したいと思います。</p>
8	<p>博士を積極的に採用している弊社にとっては本当貴重な機会となり助かってます。採用タイミングと合うかどうかで、イベントに参加できるかどうかを決めていきことになりそうなので、今回のように早めに実施してもらえると弊社としては嬉しいです。</p>
9	<p>今回は参加企業が少なかったためか、博士側からポスター発表の際、積極的にお声がけを頂いた形だったので新鮮でした。</p>
10	<p>午前からの開催で構わないので、ポスター発表の時間をもう少し長くって頂きたかった。</p>
11	<p>博士人材と密にコミュニケーションをとることができ、大変実りのある会でした。運営していただいた先生方、スタッフの皆様にも厚くお礼申し上げます。</p>
12	<p>学生の皆さんの積極性が印象に残りました。規模も大きすぎず、コミュニケーションがとりやすいイベントでした。</p>
13	<p>ポスター時間がもう少しあると、いろいろな学生と話せたかなと思いました。</p>
14	<p>博士課程の方々と具体的な話ができて、興味を直接聞ける事は大変貴重な機会でした。</p>

[9] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

- 既に利用している
- 今後利用してみたい
- どちらでもない
- 利用する予定はない

